

One Book One OSAKA 実行委員会第3回議事録

平成 26 年 3 月 11 日 9 : 30 -
大阪市立中央図書館 中会議室

(1) 開会 実行委員会メンバー確認(別紙名簿参照)
配布資料の確認

(2) 第 4 回投票結果について(集計中) . . . (別紙)

・ 投票数・開票結果(角田係長)

1 位『100 かいだてのいえ』 533 票

2 位『ミッケ!』 522 票

3 位『へんしんトンネル』 426 票

4 位『だるまさんが』 シリーズ 372 票 (幼児で最多得票)

自由記入の総タイトルは 1265 点。全票数 8,901 の 1/3 程度が自由記入欄での投票だった。小学校から多数の投票をいただいた。

・ インターネット投票について(府立中央図書館)

想定よりは少ない投票数。PC だけでなく、スマホやケータイからも投票あり。

・ 各区での開票作業について

(北区) OneBookOne 豊崎本庄小学校の分の集計も行った。トップ 1~3 位は全体の開票結果と同じだった。やはり投票リストにつられてしまうというのが感想。大きな問題なし。

(西区) H26 年 1 月の絵本の会西の例会のあとに集計を行った。

(西淀川区) 絵本展ふわふわの前に集計。1 位が『100 かいだて...』 2 位『へんしんトンネル』。リストについては賛否両論だったが、今回についてはこの形式で良かった。今後、投票が続くのであれば、リストの内容の見直しが必要だと思う。

(平野(ブロック館長))

平野区は開票作業を図書館で行った。総数は 487 票。1 位は「100 かいだて...」。小学校から投票用紙の返送を多数いただいた。小学校によって多数返送してくれるところと、そうでもないところと、温度差があった。



(3) One Book の決定について

最多得票：『100 かいだてのいえ』（シリーズ）で決定。

次点『ミッケ！』については、小学校などで大人気。だが、読み聞かせが大変、イベントでも使いにくいのではないか、という意見あり。

楽しい本ではあるが、OneBookの趣旨に照らし合わせると選出するのが難しい。第3位の『へんしんトンネル』とは、票数がある。

OneBookは単なる人気投票とするのか、今年の大阪の一冊として紹介するに値する本を選ぶのか、いま一度基準を見直す必要がある。

(4) 投票期間中及び期間終了後の各区の関連イベントについて

・区独自の One Book 投票・発表および絵本展等での取組み

(西淀川) 11月絵本展ふわふわにむけて、保育所・幼稚園・小学校に投票を呼びかけ。西淀川区長に読み聞かせをお願いした。読み聞かせしてもらったのは、2位の『へんしんトンネル』。大盛況だった。

(住之江) 中学校4校分から投票用紙が集まった。小学校は2校が参加。年齢層が高めなので、全体の投票結果とは違った傾向が出た。

1位『ミッケ！』、2位『あらしのよるに』

H26年4月にパネル展示や絵本展の行事を行う予定。

(天王寺) フェスティバルや図書館イベントで投票促進を行った。小学校からの投票は思っていたよりも少なめだった。期待していたよりは盛況ではなかったが、知ってもらうためには地道な努力が必要と実感した。

(東淀川) 東淀川区で独自に取り組んでいる「東淀川区絵本読み聞かせ事業」のイベントで投票をしてもらった。元子ども運営委員が5名かけつけ、『おまえうまそうだな』の読み聞かせをしてくれた。大阪市内に大雨警報が出た日で、子どもの参加が少なく、得票数はのびなかったものの、事業としての広がりを感じることができた。

(島之内) 昨年秋に絵本展を開催した。午前中、幼児が大勢きてくれた。

『100 かいだて…』も読み聞かせしたが、小さな子どもに伝わるように読むには工夫が必要だと感じた。人気のある本の傾向としては、大型で、楽しく、遊びの要素が高いさがしもの本があげられるように思う。ボランティアとしては、読書への関心を高めるためにも、ストーリー性があり、聞くのがちょっとしんどくても、読み手と聞き手の一体感が感じられるものを探したい。世間で話題になっていなくても、良い絵本を発掘して紹介していきたい。

・世代間交流事業の実施

(中央図書館・鎌田係長)

西区老人福祉センターを会場に、区内の幼稚園児に来てもらい、世代間交流事業を行った。司書やボランティアも参加して、ミニ工作や通リゃんせなどの昔遊びも交えて、シニアと子どもの交流を行った。すでに何度も開催しているため、リピーターもいる。

(5) One Book の発表について

※4月23日(水)(子ども読書の日)に発表。

※4/23(水)の発表は市立図書館ホームページ上に読み聞かせなどの動画をアップする。府立図書館のメールマガジンでも情報を発信する。

※4/23(水)以降の各区の子ども読書記念事業のなかで、発表・報告を行う。(4/22以前にフライングで発表することはしない。)

※全体のイベントとしては、「おはなしたのしいでえ! in大阪」フェスティバルなどとコラボレーションして報告・周知活動をさせてもらう。

※事務局としては、投票結果を知らせるポスターや配布資料等を準備する。

[実行委員よりの意見(抜粋)]

⇒インターネットのホームページや、SNSなどで発表することは素晴らしいと思うが、主に投票したのは子どもたち。大人はインターネットを利用して投票結果を見る事ができるが、子どもに伝えてくれるかどうか。みんな開票結果を楽しみにしているので、期待にこたえたい。投票に協力してくれた子どもたちも投票結果を楽しみにしていると思うので、子どもたちの目にはいるような形でのお知らせ(ポスターや配布資料)が必要。

⇒発表会を各区だけでする方式だと、力が分散して、事業自体がしぼんでいってしまう恐れがある。中央で発表を行うようにするなど、なるべく今までの体を保持した方が良いと思う。

⇒今回の子どもの読書の日が水曜日になるので、各図書館で実施している子ども向け行事とぶつかってしまう。

⇒今回から市の事業ではなく、実行委員会での事業なので、教育長への報告や発表会に市長や教育長が出席するような形式にはならない。大阪市としてのプレス発表もない。予算がないので、講師を呼ぶのに交通費や謝礼金を準備することもできない。例年のように、中央図書館に小学校を招待して、見ていただけるだけのイベントを準備するのも難しいので、知恵をしぼる必要がある。



(6) 26年度のOne Book イベントについて

・中央図書館の予定

OneBook を冠することは難しいが、秋のフェスティバルの予算を使って、OneBook にちなんだ児童文学関連の講師を依頼していきたい。

・各区でも、One Book にちなんだイベントを開催予定

各地域図書館とボランティアで相談して、OneBook を冠する行事を開催していきたい。

(7) 第5回投票について

・実施について

27年度、投票を実施するという事で決定。
財源の確保については、H26年度中に獲得に向けて動く。

・方式、候補リスト等について

次回以降の実行委員会に持ち越し。

・経費の獲得

事務局としては、予算獲得のための最大限の努力を行う。協賛が期待できる企業の情報を募集中。

⇒助成金を申請することについては、継続課題。

第1～3回を市の事業として行ってきたことをネットで発信してきた経緯もあり、子どもゆめ基金に申請することについては難しいという判断で、見送ってきた。ただし、他の助成金にあたってみることは可能なので、引き続き検討する。

(8) 次回実行委員会について

日程を調整したうえで、改めてお知らせする。第5回投票のやり方について協議したいので、26年度秋の早いうちにと考えている。

